

今更ですが、ホテルの会計システムについてちょっと考えてみませんか？

システムの導入を検討する際、様々なシステムのプレゼンを受ける事になるが、何となく聞いて各ベンダーの売り文句に流されていないだろうか。経理部門でじっくり考える時間が無いからと、選定をIT担当に丸投げした結果、巨額を投じて残業代を増やすという残念な結末を迎えることもある（実際に運用しない人に押し付けるのはご無体が過ぎるというものである）。

一方、稼働後のイメージが明確な導入プロジェクトは、システムベンダーも対応し易く、短期間で完成度の高いシステムを構築できる。

今更感があるかもしれないが、ちょっとでよいので会計システムについて考えて頂けないだろうか。

どこまでを会計システムと捉えるか

一口に会計システムと言っても、どこまでをその範囲に含めればよいのだろうか。関係しそうなシステムが色々あるので列挙してみる。

① 財務会計システム

勘定科目からなる仕訳の登録から各種財務諸表の出力まで、会計の中核となるシステム。ホテルの場合、主に複式の商業簿記のためのシステムとなる。

- ・仕訳伝票入力機能（手入力、取込、自動生成…）
- ・決算機能（決算仕訳、B/S、P/L、C/F、S/S）
- ・会計帳簿機能（仕訳帳、総勘定元帳、補助簿…）

② 管理会計システム

財務会計のデータをプロジェクトや部門など任意の視点で集計、分析するためのシステム。一定の期間ごとの業績を把握し、経営判断を行うために必要となる。ホテルの場合、ユニフォームシステムはこちらに含まれる。

- ・部門管理機能（部門、プロジェクトの集計…）
- ・費用配賦機能（科目金額比按分、固定比按分…）
- ・予算予測管理機能（月別、日別、複数予算管理…）
- ・KPI管理機能（営業統計値の入力、取込、集計…）
- ・レポート機能（ユニフォーム、独自形式…）

③ 債権システム

売掛金を管理するシステム。ホテルは売掛金が多いため重要である。PMSのサブシステムとして存在することが多い。

- ・売掛明細管理機能（手入力、取込…）
- ・請求書機能（自動集約、手入力、自振データ…）
- ・入金消込機能（AGTデータ自動突合、預り金管理…）
- ・概算手数料算出機能（クレジット、旅行代理店）
- ・残高管理機能（売掛先別残高表、補助簿、年齢表…）
- ・仕訳連携機能（財務会計システムへの連携）

④ 債務システム

買掛金や未払金などの取引業者に対する債務を管理するシステム。財務会計システムのオプションとして存在することが多い。

- ・債務情報登録機能（手入力、取込…）
- ・支払機能（支払日設定、相殺、総振ファイル…）
- ・残高管理機能（取引先別の残高表、補助簿…）
- ・仕訳連携機能（財務会計システムへの連携）

⑤ 購買システム

消耗品や飲食材の見積、発注、仕入、移動、棚卸まで管理するシステム。債務システムを内包することも
ある。ホテルの場合、アイテム毎に数量と単価を管理する単品管理が主流だ。

- ・見積、入札、発注機能（Web、メール、FAX）
- ・仕入登録機能（発注情報からの連携、手入力…）
- ・移動振替機能（貯蔵品出庫、部門間、科目間…）
- ・棚卸機能（貯蔵品棚卸、現場在庫棚卸…）
- ・社用振替機能（販促費や交際費振替）
- ・レシピ機能（メニュー毎のレシピ、食材の歩留…）
- ・原価管理機能（料飲部門やメニュー単位の原価率…）
- ・仕訳連携機能（財務会計・債務システムへの連携）

⑥ 給与システム

勤怠システムから出退勤情報を連携し、給与計算・賞与計算を行うシステム。人事システムと一体化して
いる場合もある。給与計算を外注する場合は不要である。

- ・給与賞与計算機能（給与、社保、源泉税、年調…）
- ・仕訳連携機能（財務会計システムへの連携）

⑦ 前受金システム

各種予約金やイベントチケットなどを管理するシステム。PMSのサブシステムや売掛システムのオプシ
ョンとして存在することもある。

- ・請求書発行機能（前受金の請求）
- ・前受金管理機能（予約情報との紐付け、利用消込…）
- ・仕訳連携機能（財務会計システムへの連携）

⑧ 売上管理システム

PMSなど営業系システムの売上情報を収集し、営業状況を管理するシステム。PMSのサブシステムと
して存在することが多い。PMSなどから財務会計システムに仕訳等が直接インターフェイスされる場合
は不要である。

- ・売上集計機能（営業系システムの科目・統計を連携）
- ・売上登録機能（連携分以外の追加入力）
- ・予算登録機能（月次予算、日次予算）
- ・仕訳連携機能（財務会計システムへの連携）
- ・統計連携機能（管理会計システムへの連携）

⑨ 固定資産システム

主に固定資産の状態管理と減価償却の計算を行うシステム。ホテルオペレータが固定資産を所有している
場合は導入を検討したい。

- ・固定資産管理（減価償却計算、取得、移動、除却…）
- ・仕訳連携機能（財務会計システムへの連携）

⑩ 経費精算システム

出張などの経費立替や自部門に届いた請求書などの登録など行うシステム。仕訳連携することで、経理部
門の業務効率化につながる。ワークフロー機能が搭載されていると各部門長の承認なども可能でペーパ
レスに繋がる。クラウドサービスで提供されるものが多く導入しやすい。

- ・伝票登録機能（証憑読込、交通系IC連携…）
- ・ワークフロー機能（承認ルート設定、稟議決裁…）
- ・仕訳連携機能（財務会計・債務システムへの連携）

他にも自社発券の金券管理、テナント管理やチェーンホテル本部のフィーの管理など行うシステムもあるが、
稀なので説明は省く。

ところで、これらのシステムを統合的に管理できないのかと普通は考える。例えばERPはこれらの一部もしくは全てを1つのデータベースで管理できることが売りであり、経営状態の可視化や業務効率化、在庫管理や生産工程の最適化が期待できる、としている。会計処理のプロセスをまとめるにはもってこいのシステムと思われる。しかしホテル業でERPを積極的に導入した事例はあまり聞かない。価格面の問題（はっきり言って、高い）もあるが、社内の業務全般を全て棚卸して見直す必要があるため、二の足を踏むのである。1つのカラクリで様々な業務に対応するために必要な作業だ。ERPを導入している会社は、IT部門の人材が豊富で各部門の業務を分析し調整し、稼働してからも業務内容の変化に応じ臨機応変にメンテナンスを行っている。それが見込めないのであれば検討からERPを外し、空いた時間で色々なクラウドサービスに積極的に触れ、どのように連携させるか考える方をお勧めする。

どのようなシステム構成で検討するか

これはホテルの営業形態や規模によって異なる。いくつか例に挙げてみる。いずれもチェーンではなく独立した単館ホテルという前提である。

■大規模ホテル（300室以上、アウトレット3店舗以上、一般宴会、婚礼宴会、スタッフ数百人 など）

少なくとも①～⑥までのシステムは必須となる。部門数が多くなると経費計上の手間も増大するため、⑩を導入することで経理業務を軽減・分散させることも検討したい。例えばスタッフの立替金（出張交通費、消耗品、食材の臨時仕入等々）も⑩の仕組みで処理し、給与口座に振り込むなどすれば現金の受け渡し業務そのものが軽減可能となる。その他、宴会の取り扱いやイベントが多く前受金が大量に発生する場合は⑦の導入も検討したい。その場合、宴会だけでなく他の部門の前受金も総合的に管理可能なシステムを選択するとよい。

■中規模ホテル（100～300室、アウトレット1～2店舗、宴会なし、スタッフ100人前後 など）

宴会が無くなると部門やスタッフの数がぐっと減るが、経理部門の人数も減るためやはり①～⑥までのシステムは欲しい。⑩の導入は経理部門のマンパワーおよび費用対効果で検討したい。

■小規模ホテル（100室前後、アウトレット1店舗、宴会なし、スタッフ50人前後 など）

やはり①～⑥を導入したいところだが、レストランが1店舗になると⑤の購買システムの重要度が下がる。取り扱うアイテムが減り、必然的に納入業者も減るためである。朝食のみの営業となるともはや不要と言える。レストラン以外の消耗品も含めアイテム数が少なく内容もほぼ固定化されているため、Excelでも十分管理が可能で費用対効果があまり望めない。そもそも購買担当者がいないケースも多い。内部統制的に現場任せでは困るという場合は、発注と納品だけシステム化するのも良いだろう。便利なクラウドのシステムがあるので、フルスペックの購買システムではなく機能限定したものを検討したい。

この規模になると外出や出張をするスタッフも限られるため⑩は不要だろう。

■宿泊特化ホテル（アウトレット朝食 or 無し or 外注、スタッフ20人未満 など）

このタイプのホテルは①～③だけで充分である。④の債務システムが不要な理由としては、支払先の業者がほとんど変動せずまた数も少ないためだ。また客室数が少ない場合は売掛の絶対数も少ないため③の売掛システムも不要かもしれない。安価なクラウドの経理システムを使ってみるのも良いだろう。売上や経費構造もシンプルであり、そもそも部門という考え方が不要なので②の管理会計システムも要らない。予算や統計の管理はExcelで十分だろう。

	大規模	中規模	小規模	宿泊特化
①財務会計	○	○	○	○
②管理会計	○	○	○	△
③売掛	○	○	○	△
④債務	○	○	△	△
⑤購買	○	○	△	
⑥給与	○	○	△/外注	外注
⑦前受金	●	△		
⑧売上管理	●	●	●	
⑨固定資産	●	●	●	
⑩経費精算	△	△		

大規模:300室以上、アウトレット2店舗以上、一般宴会、婚礼宴会、その他、スタッフ数百人

中規模:100~300室、アウトレット1~2店舗、宴会なし、スタッフ~100人

小規模:100室前後、アウトレット1店舗、宴会なし、スタッフ~50人

宿泊特化:アウトレット朝食のみ or 無し or 外注、スタッフ~20人

○:必須 △:できれば欲しいが費用対効果で検討 ●:条件により必須

以上は独立した単館ホテルが前提であるが、チェーンホテルの場合はどうだろう。

チェーンホテルのメリット

チェーンホテルの場合、本部機能が存在することで状況が変わる。各ホテルで処理している経理業務を本部側で肩代わりできるからである。

特に宿泊特化型ホテルは現地に経理担当者を配置しないことが多く、現場担当者が処理した売上や仕入れの情報を本部で吸い上げ加工し、財務会計および管理会計に反映させる。小~中規模のホテルを展開するチェーンの場合も、本部で一括処理し各ホテルに計上する手法はよく利用する（人件費や減価償却、本部で一括契約した各種サービスの経費など）。

近年はネットワークも大容量高速化しまた便利なクラウドサービスも普及しており、独立単館ではコスト面で難しいシステム構成も、チェーンホテルのスケールメリットで解決できる場面が増えている。そのため、各ホテルの経理担当者を減らし本部に集中させる動きはますます加速するだろう。

では具体的にどのように経理処理を行うのか、少し考えてみよう。

【日々の売上処理】

前日の売上に関するレポートや現物（入金機のレシート、売掛の控えなど）をチェックし、仕訳や売掛明細を取込みもしくは入力する。この処理を経理担当者が行っているケースが多いが、チェック方法をきちんとマニュアル化すれば経理以外のスタッフでも対応可能だ。仕訳や売掛明細の取込みは本部経理で行い、その手前まではホテルスタッフが行う、という形が統制上も望ましいだろう。また、チェック内容を極力単純化するためにCAT 端末等が営業系システムとリアルタイム連携するなど現場部門でのミスを極力抑えるよう構築したい。売上のミスは修正が容易だが、精算のミスは顧客へ影響することもあり運用を十分検証する必要がある。現金については入金機を必ず用意し毎日投金して定期的に預金口座に振り替えられるようにし本部で管理可能な状態にする。

【売掛の請求、消込】

売掛先が自動精算のエージェントやクレジットのみであればあまり気にする必要はないが、法人や個人の売掛利用、請求が必要なエージェントが多い場合はホテル側に一定レベルのスキルが求められるだろう。消込については本部で一括処理も可能だ。自動精算の場合はインターネットで精算の内訳を入手可能である。ホテルで請求書を発行した場合はその内容を本部でも検索可能となる仕組みがあるとよいだろう。申し送り事項や発行後の問い合わせ内容など残せると消込の役に立つ。

【預金の入金】

基本的に本部主導となる。売上金は定期的に売上金口座に計上されるが、過不足がある場合はホテルから報告が上がっている状態にする。売掛の入金はそのまま本部で消込処理する。前受金の入金はホテルに通知することになるが、前受金システムが存在すると前受金の請求情報や予約情報と紐付けて管理可能となり、前受金が迷子になることも減る。

【購買業務】

料飲部門のあるホテルは発注～仕入～棚卸をホテルで完結させる。ただし発注については、ホテルでは発注依頼までとし、実際の発注実行は本部で行うことも可能だろう。料飲部門が無ければ購買業務そのものも簡素化されるため、本部で全てまかなうことも可能だ。

【債務処理】

買掛金の計上は購買システムから連携可能だ。未払金については経費精算システムを活用し、ホテルで登録・承認された情報を債務システムに連携し、支払うことでホテルでの債務管理は不要となる。請求書の添付も経費精算システムをうまく使いたい。

【小口現金・スタッフの立替金】

緊急の消耗品や食材の買い出しなど、小口現金が必要となる場合があるが、これらは極力立替払いとしたい。出張交通費も含め、スタッフに立て替えてもらったものは、経費精算システムを利用して給与口座へ振り込む。現金のやり取りが減り、小口現金の出金の手間や紛失などの事故が減る。

【人件費処理】

ホテルの勤怠システムから本部の給与システムに勤怠情報を連携する。仕訳計上、支払いまで本部で一括処理する。

【減価償却処理】

本部でのみ管理する。そもそも、固定資産計上するような物品はホテルの独断で容易に購入・設置できない。

こうしてみると、ホテル側で財務/管理会計システムを操作する場面が無いことがわかる。経理スキルを必要とする人材確保は不要であり、本部側を強化すれば足りる。

結局のところは…

ざっくりちょっと考えてみたが、やはり重要なのは会計処理の本質を見極めることである。何のためにそのプロセスがあるのか。何のためにそのチェックを行うのか。そしてそれはどうすれば「楽」になるのか。

楽になる仕組みを考え、実現する過程にシステム導入があり、今あちこちで声高に叫ばれている生産性の向上に繋がると私は思うのだが、皆さんはどうだろうか。